鏡池だより

第５０号
令和４年
（2022年）
1月・2月・
3月
発行：編集
岡崎別院
輪番　福田 大

光寿無量

凡夫が凡夫と頷かされるのに骨が折れました

皆様方と共々に新年をお迎えでき、「御芽(おめ)出(で)至(とう)ございます」（仏法を聞く御芽が私に至り届く年でありたい）を年頭の言葉といたします。

別院整備に伴い、本堂ご本尊の御動座の後すぐに、館内の廃棄品と保管品の選別作業が始まった。

工事開始を控え、気ぜわしく、落ち着かない状況での工事会議、関係業者との協議があるなか、気持ちばかりが先走り、身体が付いて来ない精神状態で物品を運んでいるとき、左足をぐねり、激痛のあとすぐに直感したことだが、やはり、小指の付け根の骨を骨折した。歩けない、痛い、この先の行事は進行できるのか。歩けるようになるのか。正座ができるようになって、お参りがまたできるようになるのか。次々とこれからの事柄で行き先が見えなくなり、不安ばかりが山積してきた中での入院となった。

九日間の入院中、思いもよらない心が起ってくる。まず、病室（四人部屋）で誰が一番重い症状か、だれが一番軽い症状か、その中で自分はどの辺の症状かと。つまり他との比較の中で自らの現状を把握したいという思いがこみ上げてきた。

入院三日目に手術を受け、ギプスを付け、激痛がする状態で、一人ではトイレも行けず、ナースコールを押し、ナースに車椅子を押して頂きトイレへ。流石に気が引けて、思いついたのが「食事量も水分も減らせばトイレの回数も減る」と考え、二～三日を過ごすと今度は、逆に食欲が無くなり、意欲も低下し、何か世間からかけ離れた処で生きているような孤独感がこみあげてきた。

この怪我で、私が骨折をした所は、足の小指の付け根である。日常、歩いたり、走ったりして平気で踏みつけていた所である。しかしながら、たかが小指、されど小指であった。実は一番踏みつけ、一番体重をかけ、一番柔軟性を強いていた所であった。六二年間この足に支えられ、走ったり、登山をしたり、水泳をしたり、何時間も正座で押さえつけたりして平気で生きてきた私であった。と、この骨折した小指から痛みをとおして、身をとおして教った。

ギプスも外れ、歩けるようになり、以前は、なんともなしに、跨いでいた段差も気に止め、転ばないよう、躓かないように細心の注意を払って歩けるようになって、二週間が過ぎ、やっと正座もできるようになった。

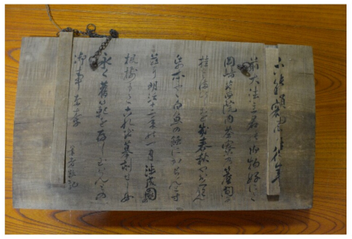
日常性がやっと戻りありつつある今、手術で激痛を味わったこと、山積していた不安、意欲を喪失する絶望感から気づかせられたことも、日常を取り戻していく中で、薄れていく自分自身があり、今、「汝、凡夫なり」の言葉が、私自身に響き渡っている。

お茶室（西側より）

お茶室の様子です。このお茶室は達如上人がお建てになったものです。改修工事を行い、今後もお茶会等で使われることを想定しています。

お茶室入口の扁額（表）

お茶室入口の扁額（裏）



お茶室が建った当時の大徳寺宙宝禅師の扁額「翠雲」です。裏には由緒書があり、明治頃に書かれたものかと思われます。お茶室と同様に修復し、今後も皆様にご利用頂けるようにする予定です。

法座案内

○「歎異抄」を読む
一月十三日（木）九時半～

○「味読正信偈」
二月十日（木）九時半～

○「鏡池の集い」
三月十日（木）九時半～

※岡崎別院総合整備事業のため、当院本堂は使用できませんので、京都教務所をお借りして三日講を開いております。ご不便をお掛けしますが、よろしくお願いいたします。

結婚式

現在、岡崎別院整備事業の為、『しんらん交流会館』をお借りして挙式をいたしました。

十一月六日

木越（きごし）　萌（もえ）さん
木越　涼（すずか）さん

今後の鏡池だよりについて

昨年七月より、岡崎別院総合整備事業に伴いまして、当院における法要・法話は中止となっています。つきましては、今後工事が終わるまで、寺報「鏡池だより」は紙面を縮小する場合もあります。皆さんにはご理解いただきますようよろしくお願い致します。

〈列座のつぶやき〉

二〇二一年を振り返ってみると、新型コロナウイルス感染症の影響によってあらゆる面で制限があったのではないかと思います。私自身、「コロナのせいで、コロナのせいで」とコロナに関係のないことまでコロナのせいにしていた一年のような気がします。自分の思い通りにいかないことを「環境のせい」や「他人のせい」にしてしまいがちな私ですが、コロナ禍の生活を通して感じたことを大切に、二〇二二年は過ごしていきたいと感じているところです。

（松岡）

宗史蹟親鸞聖人岡崎草庵跡
真宗大谷派（東本願寺）
岡崎別院
〒606-8335
京都市左京区岡崎天王町26
電話 075-771-2921
FAX　075-748-1665
http://okazakibetsuin.com
info@okazakibetsuin.com

九月七日・八日　仏具搬出

前号でもお知らせした通り、九月七日～八日の二日間をかけて、本堂仏具の搬出が行われました。

㊨御宮殿の運搬

㊧解体された須弥壇

㊨解体時の内陣

㊧御宮殿の解体

㊨搬出後の本堂

㊧御厨子の解体

当院御宮殿（くうでん）の構造について

御宮殿解体の際、当院御宮殿は特殊な構造であることが判明しました。仏具を搬出していただいた若林仏具製作所担当者より御説明をしていただきました。

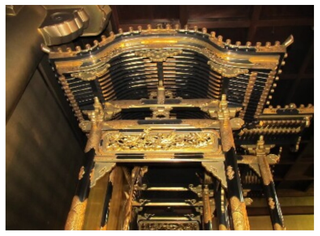
（若林仏具担当者）

岡崎別院の御宮殿は大谷派御本山式　二重屋根　八棟作り。奥行きが広く、特に御本尊を安置する中央の奥行きが他に例を見ないほど深くできています。

一般的な御宮殿は、解体時大きく三つの部品に分けられます。礼盤や柱などの胴部分と下屋根そして上屋根の三つです。胴部分は柱や礼盤、マスなど全て個別に分解できますが、通常、下屋根は一体型で分解できません。

岡崎別院の御宮殿は、御本尊の周囲四本の柱が直接上屋根を支えており、正面と両脇の三分割に下屋根が分解可能な構造でした。このような構造の御宮殿は大変珍しく、伝聞ではありますが、御本山の御宮殿もこのような構造になっているとお聞きしております。

下屋根の継ぎ目



後軒つきの御宮殿

写真提供　若林仏具製作所

今後の岡崎別院境内整備の予定

十一月末現在の別院境内の様子を紹介します。現在の建物で秋を迎えるのは今年が最後となります。今後整備が進んでいく中で、境内の風景がどうなっていく予定なのかを簡単に御紹介します。

正面は本堂
左側にはホテル

岡崎別院の境内において大きな存在感を放っているイチョウの木です。整備後もイチョウの木は残して行く予定です。その他の木々は、整備に伴い伐採・剪定していただく予定です。

南側より

寺務所より

現在は関係者以外は立ち入り禁止となっている、庭園の様子です。将来的には、庭園の整備が今よりスムーズに行うことができるよう、そして整備を以降も持続していけるようにメンテナンス動線を作る予定です。

必度橋南側より

必度橋上より

鏡池

長年使われていた囲い石は、損傷も著しく来院者の安全確保のため、今回の整備で取り替える予定です。

寺務所前の破風

これまで庫裏の顔であった破風は、再び新しい庫裏の顔として引き続き使われることとなり、移築する予定です。

本堂、御殿裏

生い茂っていた草木は土木業者によって剪定していただきました。今後は本堂裏に住居棟が建つ予定となっています。